

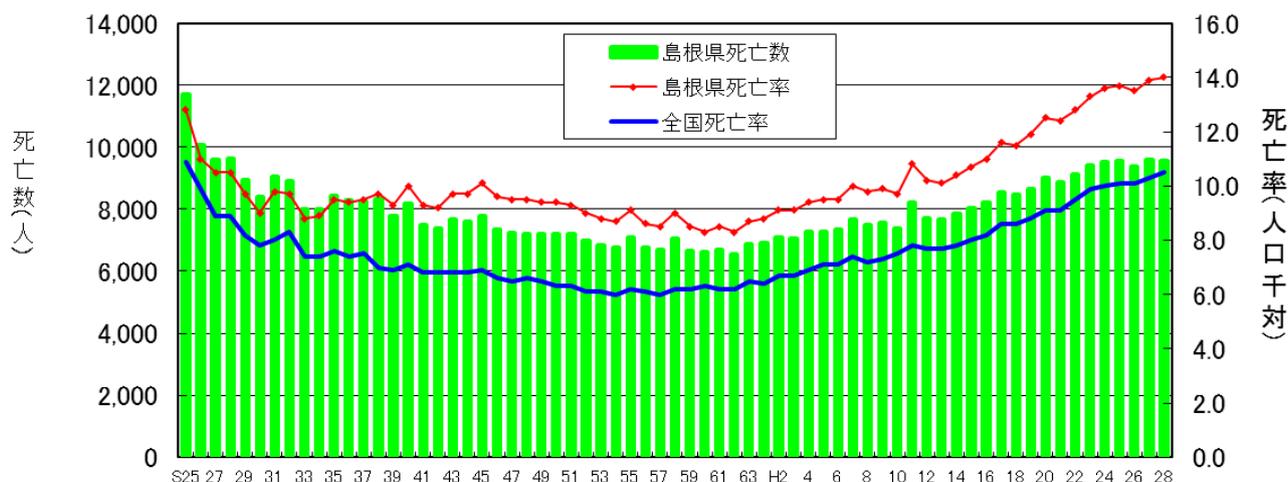
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

平成 28 年の死亡数は 9,562 人で、前年の 9,604 人より 42 人減少し、死亡率（人口千対）は 14.0 で、前年の 13.9 より 0.1 増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和 30 年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和 63 年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図 4）。

図 4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口 10 万対）をみると、15～34 歳の各階級、40～44 歳、60～64 歳、70～74 歳および 80 歳以上の各階級が前年より減少した。特に 80 歳以上の減少が大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、5～24 歳の各階級、30～34 歳を除く年齢階級において 100 以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表 4）。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	平成28年	平成27年	対前年増減	平成28年	平成27年	対前年増減	
総数	9,562	9,604	△42	1,398.0	1,394.0	4.0	100.2
0～4	14	12	2	51.9	44.5	7.4	123.8
5～9	4	1	3	13.8	3.5	10.3	93.3
10～14	3	2	1	10.0	6.5	3.5	50.0
15～19	3	12	△9	9.4	38.3	△28.9	-
20～24	7	11	△4	30.4	44.0	△13.6	-
25～29	13	16	△3	46.4	56.3	△9.9	208.9
30～34	11	23	△12	33.3	68.6	△35.3	78.4
35～39	23	18	5	60.5	45.6	14.9	147.8
40～44	42	43	△1	95.5	97.3	△1.8	155.4
45～49	61	58	3	152.5	151.2	1.3	134.6
50～54	104	98	6	273.7	244.8	28.9	197.1
55～59	174	150	24	395.5	334.5	61.0	216.4
60～64	282	334	△52	564.0	637.4	△73.4	252.5
65～69	616	552	64	977.8	935.0	42.8	266.7
70～74	523	607	△84	1,275.6	1,400.5	△124.9	206.3
75～79	884	891	△7	2,266.7	2,246.7	20.0	211.1
80～	6,797	6,775	22	7,996.5	8,156.0	△159.5	140.4

注：死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

平成27年、28年は年齢不詳が1人いるため、死亡総数と年齢階級別死亡数の合計は一致しない

(2) 死因

①死因順位

平成28年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,571人（人口10万対死亡率375.9）、第2位は心疾患で1,357人（198.4）、第3位は老衰で908人（132.7）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が肺炎となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいに推移していたが、平成19年以降上昇し続けている（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県ごとに見た場合、老衰（全国第1位）、悪性新生物（第3位）、脳血管疾患（第4位）が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

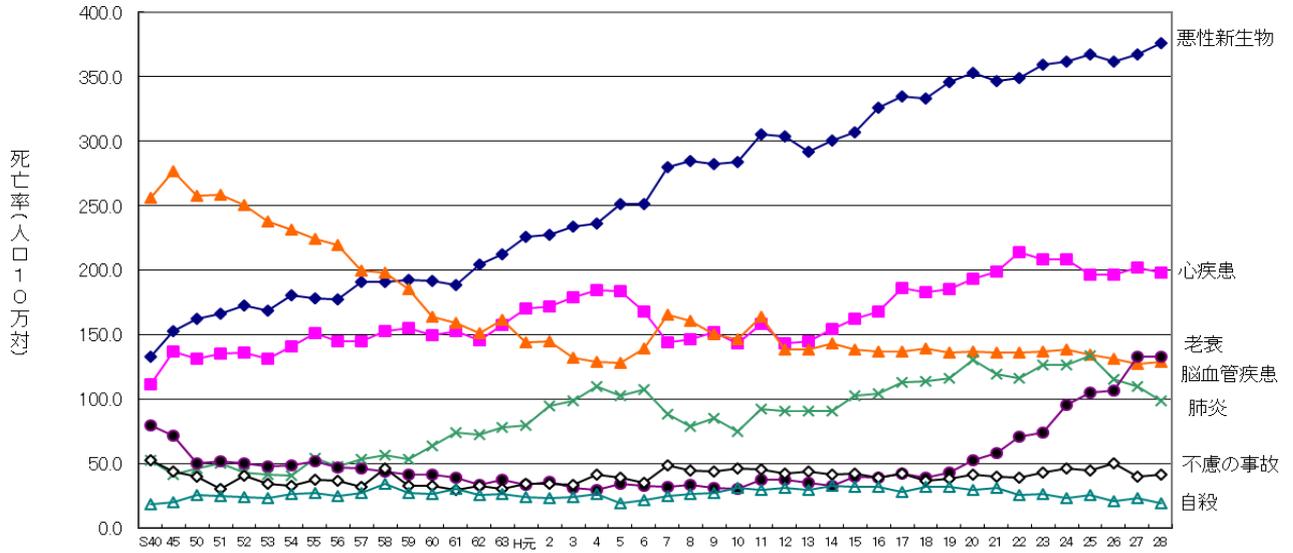


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	平成 28 年									平成 27 年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物	1	2,571	375.9	1	1,510	459.0	1	1,061	298.9	1	2,529	367.1
心疾患（高血圧性を除く）	2	1,357	198.4	2	582	176.9	2	775	218.3	2	1,392	202.0
老衰	3	908	132.7	5	217	66.0	3	691	194.6	3	918	133.2
脳血管疾患	4	880	128.7	3	394	119.8	4	486	136.9	4	879	127.6
肺炎	5	676	98.8	4	379	115.2	5	297	83.7	5	758	110.0
不慮の事故	6	286	41.8	6	156	47.4	7	130	36.6	6	273	39.6
アルツハイマー病	7	194	28.4	10	52	15.8	6	142	40.0	9	155	22.5
腎不全	8	171	25.0	9	75	22.8	9	96	27.0	7	170	24.7
血管性及び詳細不明の認知症	9	162	23.7	13	44	13.4	8	118	33.2	11	122	17.7
自殺	10	130	19.0	8	98	29.8	17	32	9.0	8	158	22.9

注： 男性の7位は「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」で死亡数104・死亡率31.6である。

女性の10位は「大動脈瘤及び解離」で死亡数73・死亡率20.6である。

②年齢別死因

平成 28 年の死因を性・年齢（5 歳階級）別構成割合から見ると、15～19 歳、20 歳代から 50 歳代前半までは自殺の占める割合が高く、女性と比較して男性の割合が高くなっている。また、死因順位第 1 位の悪性新生物の占める割合は、5～14 歳の各階級において死亡数は低いものの、割合が著しく高いが、男性は概ね 35～39 歳から増加し 65～69 歳が最も高く、女性は 35～39 歳の階級を除いて、概ね 25～29 歳から増加し、55～59 歳の年齢階級が最も高くなっている（図 6）。

図 6－1 性・年齢（5 歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

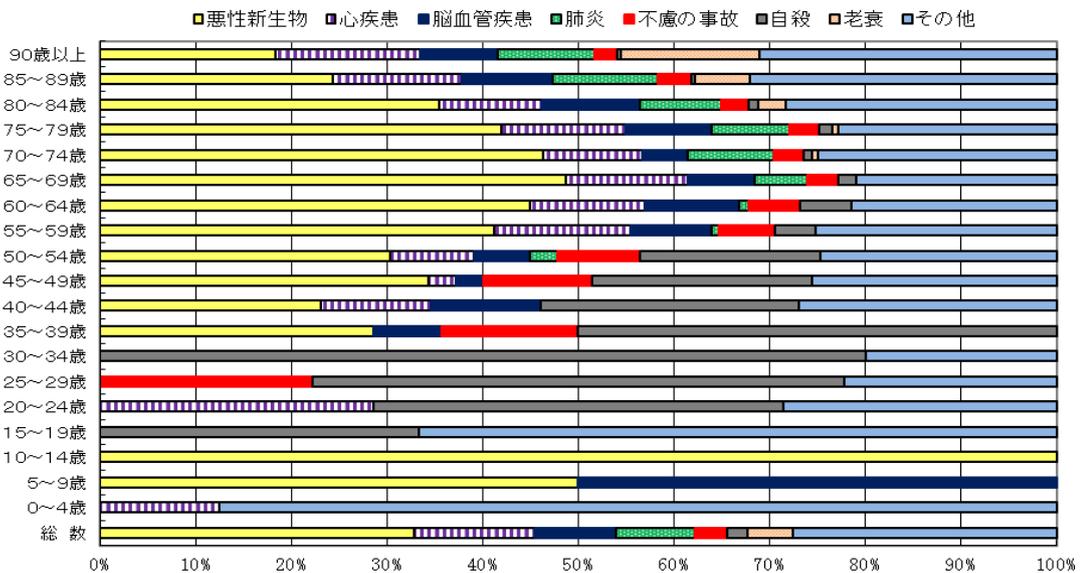
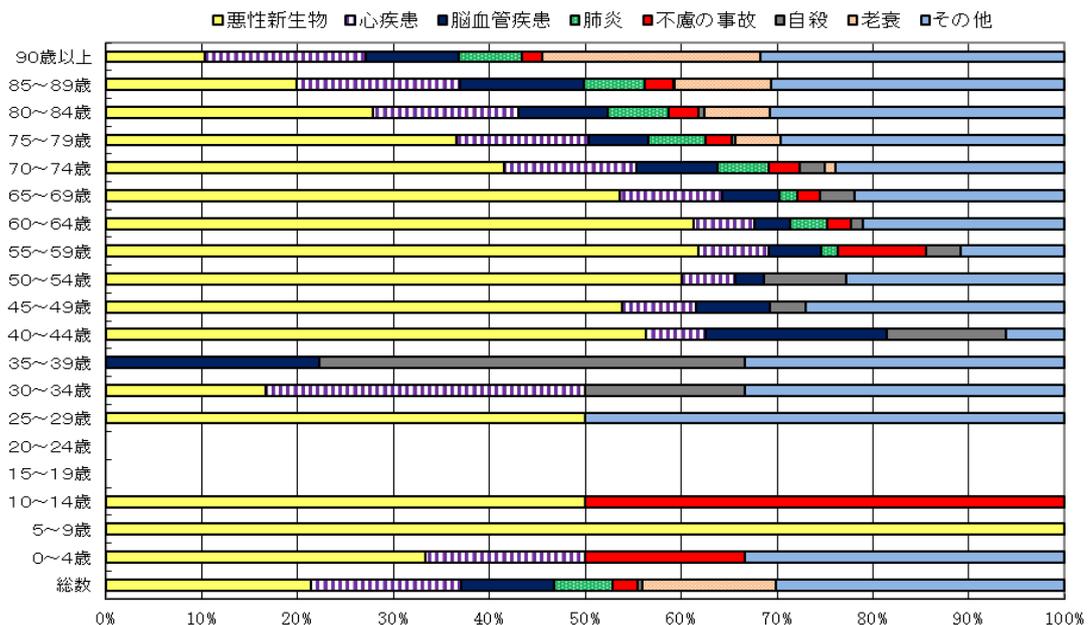


図 6－2 性・年齢（5 歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率を主な部位別に見ると、男性は肝臓と大腸が上昇しているが、女性では、肺、乳房と肝臓が上昇し、特に乳房は死亡率で過去最高となった。(表6、図7)。

表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

死亡数

性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	16	20	21	22	23	24	25	26	27	28
男性	胃	250	314	293	273	263	267	233	231	251	227	242	230	218	237	216	208
	肺	19	61	82	169	250	299	341	331	308	301	352	305	347	336	363	319
	肝	54	55	65	121	206	208	179	165	168	173	155	159	143	159	137	141
	大腸*	23	42	48	79	151	163	139	183	162	168	177	192	157	175	171	178
女性	胃	165	179	202	149	159	137	150	146	158	137	137	146	149	134	116	109
	肺	8	18	32	52	109	98	91	124	119	123	101	137	112	126	118	128
	肝	37	33	35	55	89	99	96	100	83	88	85	84	103	80	76	90
	乳房	18	16	25	28	38	43	74	60	64	65	56	62	63	67	72	78
	子宮	93	71	57	40	38	25	26	38	17	36	30	30	34	35	29	26
	大腸*	30	44	48	85	123	125	139	168	146	140	154	153	165	150	160	159

死亡率

性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	16	20	21	22	23	24	25	26	27	28
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.4	67.3	73.6	66.5	71.4	68.2	64.7	71.4	65.3	63.2
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	95.8	96.5	90.3	88.2	103.8	90.5	103.0	101.2	109.7	97.0
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	50.3	48.1	49.3	50.7	45.7	47.2	42.4	47.9	41.4	42.9
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	39.0	53.4	47.5	49.2	52.2	57.0	46.6	52.7	51.7	54.1
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	38.6	38.7	42.2	36.9	37.1	39.9	40.7	37.2	32.4	30.7
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	23.4	32.9	31.8	33.1	27.4	37.4	30.6	35.0	32.9	36.1
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	24.7	26.5	22.2	23.7	23.0	23.0	28.1	22.2	21.2	25.4
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	19.0	15.9	17.1	17.5	15.2	16.9	17.2	18.6	20.1	22.0
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	6.7	10.1	4.5	9.7	8.1	8.2	9.3	9.7	8.1	7.3
	大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	35.7	44.6	39.0	37.7	41.7	41.8	45.1	41.7	44.7	44.8

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

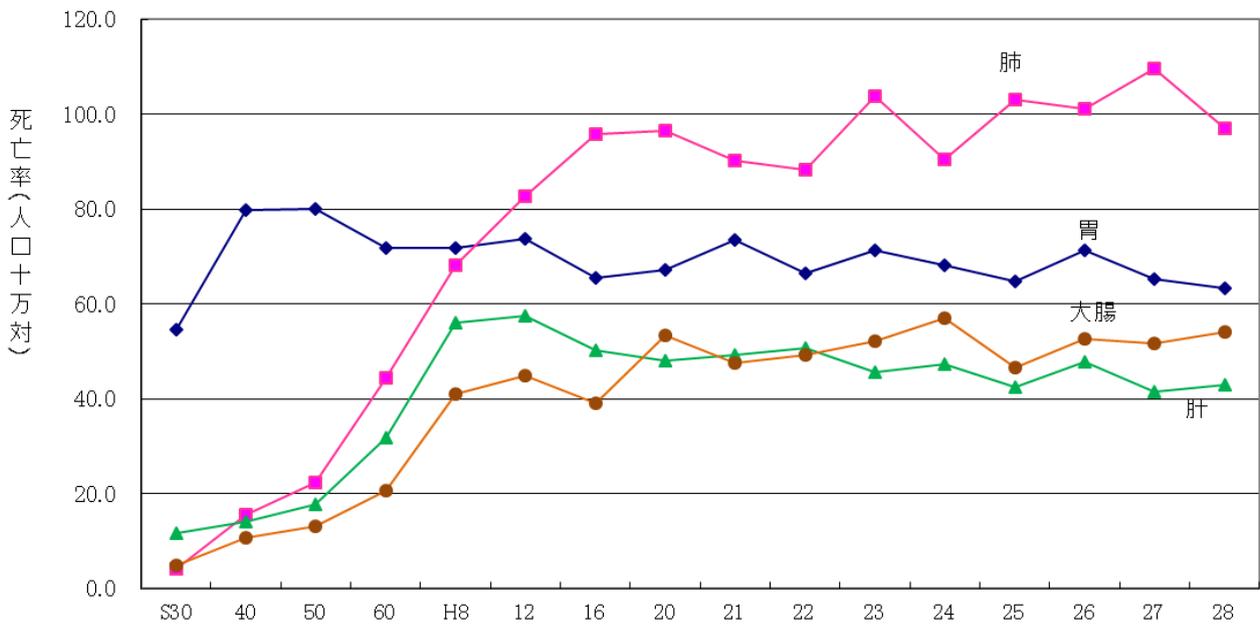


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

